

ANTI-AGING MEDICINE

別 刷

メディカルレビュー社

〒541-0045 大阪市中央区道修町1-5-18 朝日生命道修町ビル TEL 06-6223-1469
〒113-0034 東京都文京区湯島3-19-11 湯島ファーストビル TEL 03-3835-3049

地域医療の アンチエイジングへの取り組み

時代ニーズ先取型
医療を目指して



Hirotaka Takizawa

瀧澤 弘隆

アンチエイジング医学との出会い

私はもともと呼吸器内科が専門で、肺癌を中心とした呼吸器疾患の臨床を手掛けてきていたが、2001年に転機が訪れて産業医学と予防医学の分野に飛び込むことになった。一念発起して労働衛生コンサルタント資格を取得し、日本人間ドック学会認定医資格も得て（専門医制度発足により本年1月から専門医に）、それらの分野における基礎力を培った。

日本抗加齢医学会の存在を知ったのは当クリニックがリニューアルオープンを行った2005年秋で、翌2006年5月に東京で行われた学会に初参加し入会した。「バランスのよい心身機能を維持しながら天寿を全うする」ことは誰しも理想とするところであろう。所定の方式で筋年齢、骨年齢、血管年齢。神経年齢およびホルモン年齢を算出し、それらに基づき総合的に免疫機能、抗酸化能、ストレス抵抗性、生活習慣、代謝機能を評価する（図1），そして弱点にテーラーメードで対策を講じる点、人間ドックとはひと味違った新鮮さと先進性を感じた。基礎医学研究が盛んなことにも好感と信頼感がもてた。早速、専門医試験に挑戦すべく準備を開始し、2009年1月付で専門医認定証をいただいた。当クリニックでは、本年1月付で専門医がもう1人誕生し、将来におけるアンチエイジングドック併設を念頭に置き研究を継続している。

当クリニックの理念と活動

2005年10月に、これまで2カ所で小規模に行っていた人間ドック施設を統合し、高層ビルの27階に移してリニューアルオープンした（写真1、2）。2004年に、

●たきざわ・ひろたか●

✉ QYW04410@nifty.com

財団法人 柏戸記念財団 ポートスクエア柏戸クリニック理事・所長

1937年岐阜県生まれ。千葉大学医学部卒業。

日本呼吸器学会功労会員・専門医・指導医、日本肺癌学会特別会員、日本人間ドック学会会員・専門医・指導医、日本抗加齢医学会評議員・専門医、日本がん検診・診断学会がん検診認定医、日本医師会認定産業医、労働衛生コンサルタント。



時代ニーズ先取型 医療を目指して

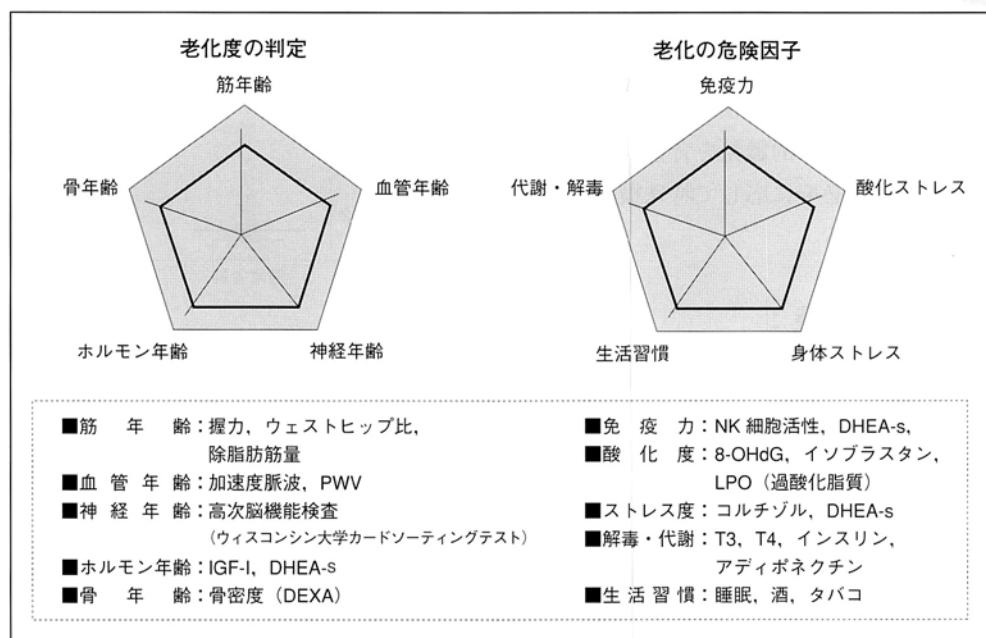


図1. 老化の評価のために



写真1. 千葉ポートサイドタワー外観 (27階に当クリニック)



写真2. エントランス付近

関東以西にある代表的な大規模人間ドック施設10施設を視察し、その長所を咀嚼して我々の体力と特性にマッ

チした形で取り入れた。新たに打ち立てた当クリニックの理念「信頼・安心・満足・元気の提供」を基礎としたサービス精神、それを支えるハード面の「快適性」、ソフト面での「接遇」「検査の正確性・迅速性」を根底に据えて、多様なニーズに柔軟に対応できるように機能を設計した。

業務内容として、女性疾患にも十分に配慮した人間ドックを中心に、一般健診、特定健診、外来内科診療、産業医学活動、特定保健指導などを行っている。ストレ

地域医療の アンチエイジングへの取り組み

ス社会の中で発生するメンタルヘルス不全対策にも留意した。医師は、常勤、非常勤を問わず多くが産業医の資格をもち、労働衛生コンサルタントも在職するため、人間ドック診療にあたって産業医学的識見を背景にして臨んだり、ドック項目以外にも必要に応じて特殊検診などを実施できる態勢が可能である。

死亡第1位の肺癌への挑戦： 低線量CT肺がん検診

低線量CT肺がん検診は、従来の単純X線写真の約10倍の検出率を示し、早期肺癌診断の有力なツールとして全国的普及をみつつある。当施設でもオプションとして実施し、気管支鏡切除が可能であった早期の葉気管支発生肺癌など、中心型肺癌を含む早期肺癌を発見している。その成果も含めて、2009年9月に第50回日本人間ドック学会学術大会長指定ワークショップで講演し、低線量でCT検診を行うことの重要性とリスク別の検診間隔設定の意義について述べた¹⁾。また、CT検診の一環として、一般住民を対象とした石綿関連疾患スクリーニング調査研究（厚生労働省）にも参加し、本年度は第2回検査を実施中である。

脳梗塞バイオマーカー 「アクロレイン」の開発研究と実用化

大学などからの共同研究の呼び掛けに積極的に応じており、実用化されたものにアクロレイン検査（株式会社アミンファーマ研究所）がある²⁾。千葉大学大学院薬学研究院五十嵐一衛名誉教授の下で開発された「無症候性脳梗塞」の高感度検出が可能な血中物質で、千葉県内11医療機関が参加してその有用性を証明した。現在、有料オプション検査として人間ドック受診者に利用していただいているが、脳ドックの一部の機能を低廉な料金で代用できるところから利用者の関心が高い（図2）。

地域医療連携バスとPSA

診療活動の中でも地域医療連携を重視し、その一環として連携バスに参加している。千葉泌尿器科地域連携協議会に入会し、千葉県がんセンターと提携して前立腺癌

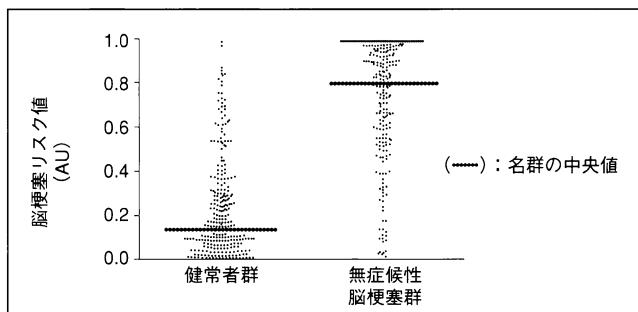


図2. 健常者群と無症候性脳梗塞群における脳梗塞リスク値の分布

の術後患者や前立腺癌疑い者に対して定期的に問診とPSA検査を行い、受診者の利便性向上と専門病院の外来負担軽減に貢献している。受診者が連携バスに移る際には、専門病院にある連携施設の紹介パネルをみて受診先を決める仕組みである。連携側としては、PSAが非常にわかりやすい指標であるため、非専門医でもストレスなしに担当できる利点がある。最近、この活動が日経メディカル誌の特集『癌患者引き受けます！』で「非専門でも頼れるマーカー PSA」として紹介された³⁾。

アンチエイジングドックの試行

上記のような活動の中で、将来どのようにアンチエイジング医学を取り入れられるかを検証するために、アンチエイジングドックを昨年実施してみた⁴⁾。

1. 対象

年齢54～78（中央値69）歳の比較的活動的な男性6人を対象に標準的メタボ・アンチエイジングドックを実施した。既往歴では糖尿病1名、高血圧3名が各治療中であったが、コントロールのよい状態であった。

2. 方法

当日ごく軽い朝食後は絶食とし、12時30分頃問診、血圧測定、採血採尿を行い、身体計測を実施した。採血項目には一般ドック検査項目のほか、IRI、DHEA-sなどのホルモン検査を加えた。その後、軽く昼食を摂って休息し、生体電気インピーダンス式体組成計による筋肉

時代ニーズ先取型 医療を目指して

量、超音波法による骨密度、脈波速度PWVによる動脈検査、Wisconsin Card Sorting Testを順次実施した。その成績から所定の方式で筋年齢、骨年齢、血管年齢、神経年齢およびホルモン年齢を算出した。

3. 成績

6名の計測平均値はBMI 25.5 ± 1.5 、腹囲 92.1 ± 3.3 cmとやや太めであったが、血圧、血糖値、脂質、尿酸値、クレアチニン値などはほぼ基準値内にあった。アンチエイジングドック項目の成績から算出された機能年齢は、活動的集団らしく筋年齢と骨年齢で実年齢より若く、神経年齢とホルモン年齢で実年齢相当に評価されたが、他方、血管年齢では1例を除いて実年齢より14~19歳高く評価された。基礎疾患が反映された結果であったが、高齢者集団において10歳をはるかに超える高齢評価は心理的ショックをもたらした。

4. 所感

測定値から算出された機能年齢は、肺年齢などと同様に標準データベースに照らして算出されるが、平易でインパクトをもつ提示法と考えられる。機能年齢は行動変容を促す際に説得力ある指標となるが、あまりに乖離値

が大きいと心理的ショックを招き、何らかのケアの必要性が生じる。機能年齢算出法の精度向上に期待しつつ実施方法について研究を重ね、アンチエイジングドック本格導入に向けて検討して行きたいと考えている。

おわりに

抗加齢医学は日進月歩を遂げており、新発見事象やサプリなどが身近な話題として報道されることが多い昨今である。アンチエイジング医学が、真に国民の健康寿命延伸に役立つように研究し取り入れていきたいものであり、この分野の健全な発展を願ってやまない。

●文 献

- 1) 瀧澤弘隆：低線量CT肺がん検診の果たす役割. 人間ドック (増) 24 : 2010 (in press)
- 2) Yoshida M, Tomitori H, Machi Y, et al : Acrolein, IL-6 and CRP as markers of silent brain infarction. Atherosclerosis 203 : 557-562, 2009
- 3) 日経メディカル 10月号, 58-59, 2009
- 4) 瀧澤弘隆, 藤井清孝, 米井嘉一, 他：人間ドック施設におけるアンチエイジングドックの試行. 第50回日本人間ドック学会抄録集 24 : 346, 2009